

## 『緒方 貞子 ー小さな巨人ー』

歴史上、世界から尊敬の目で見られている日本人はいったい誰がいるのでしょうか。芸術の世界では、葛飾北斎など浮世絵師が、ヨーロッパの印象派に大きな影響を与え、あこがれの的でした。戦史では、東郷平八郎が、日本海海戦のパーフェクトゲームの主役として世界の軍人から尊敬されています。政治の世界では、誰を思い浮かべるでしょうか。かつて、J.F ケネディーが尊敬する日本人として上杉鷹山を上げていましたが、恐らくおせいじだったと思います。世界の尊敬を集めた日本の政治家、政治学者については、戦前は、新渡戸稲造で、戦後は緒方貞子ではないかと私は思います。

令和元年10月に、緒方貞子さんが他界されました。ドキュメントの特集番組を見ましたが、内戦の最前線に防弾チョッキとヘルメットで立ち、指揮を取っていた姿が、りりしくてかっこよかったです。当時、一緒に仕事をしていた同僚が、彼女のためなら命を落としてもかまわないと言っていたことが印象的でした。

緒方貞子氏は、昭和2年の9月の生まれで、貞子との命名は5.15事件で銃殺された祖父の犬養毅によるとのことです。父は、外交官でアメリカ、中国などを経て日本に帰国しました。彼女は、聖心女子学院に編入し、英語・英文学を専攻した後、ジョージタウン大学、カルフォルニア大学で学び政治学の博士号を取得しています。その後、国際基督教大学の講師を経て国連への道に進みます。

1968年、国連総会の日本政府代表顧問となり、その後も大学の准教授や教授を務めながら、常時、国連の職務や国際協力機構の職務にあたっていました。

1991年に第8代国連難民高等弁務官に就任、日本人として初、そして国連でも女性として初の弁務官でした。緒方さんが就任してすぐ、湾岸戦争が勃発し、多くのクルド人がトルコに向かって避難しましたが、トルコが入国を拒否したため、多くの人々が国境近くに残ることになりました。

当時、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）では、他国へ渡った難民の保護は行なっていましたが、自国内の難民保護はしていませんでした。その時、緒方さんは、「国境を越えたら支援する、国境を越えないなら支援しない」では問題は解決しない「人命を守ることが何より大切」という考えで、UNHCR内の議論を重ね、とうとう支援することを実現したのです。

1992年ボスニア紛争が始まりました。UNHCRは食料の供給をしようとした。

ところが、空輸までは出来ても、その後のトラックで現地に運ぶことができませんでした。

道路が封鎖されてしまうのです。政府が、敵対する勢力よりも自分の側の勢力に多くの物資が運ばれるよう仕向けたのです。

緒方さんは「もし道路を封鎖するのであれば、全ての救援活動を直ちに停止させる」と発表したのです。

人道援助を政治から引き離れたのです。1994年、アフリカのルワンダで民族紛争が起こりました。

100万人規模のルワンダ難民がザイールに流入し難民キャンプが作られ、食料支援が行なわれました。この時、キャンプの治安が問題となり、国際社会に協力を求めましたが、危険な任務のため引き受けてくれる国はなかったのです。緒方さんは、ザイール大統領と交渉し、アフリカ諸国と共に治安維持にあたってもらうことに成功しました。

緒方貞子さんは「人命を救うための最善の選択」という基準のもと、状況に応じて柔軟な判断を行なってきました。また、各国政府の支援を取り付けるなど、史上初めての援助方法も実現させました。難民問題と平和構築を世界に訴え続けた人でした。

あまり知られていませんが、緒方貞子さんは、1951年にロータリー国際親善奨学生として、アメリカジョージタウン大学で勉学し、1990年ロータリー国際理解賞、2016-17年度ロータリー学友奉仕賞を受賞しています。2004年大阪国際大会でも印象的な基調演説をされました。その中で「今日、どこに紛争が起きても、遠い国の出来事ではない。・・・さまざまな人種間の理解、寛容、率直さを推進する唯一の方法は教育だと固く信じている・・・」

ロータリーを通じて社会奉仕の重要性を学び、超我の奉仕というロータリーの標語に深く感銘し、その後の指針となった」と言われています。大変、ロータリーにとって名誉なことだと思いました。

ご冥福をお祈りします。

